

家を建てるということ

苫小牧市医師会
にしん耳鼻咽喉科クリニック

安達 俊秀

私は、耳鼻咽喉科医院を開業して19年目になる。開業する1年前に職場の近くの建売住宅を購入し今まで住み続けていた。一昨年子供に手がかからなくなったのと消費税が上がる前というタイミングで、55歳にして人生初の注文住宅を建てることにした。3ヵ月ほど前に完成したのでこれまでの経過を紹介したい。

家を建てるということは、多くの人にとって人生で一番高い買い物ではないだろうか。それゆえこだわりを持ちたいところだ。人によって重視する部分は違いがあると思うが、我々夫婦の場合は、暖かく災害に強くメンテナンスが楽な家を最重要項目とした。デザインや趣味性については上の項目を充たしたうえで考えることにした。

家の性能を決める項目に家の構造がある。一戸建ての住宅は、通常木造か軽量鉄骨がほとんどである。木造には在来工法とツーバイフォーなどの木造枠組壁工法がある。在来工法は柱で支える方法で、設計の自由度が高いが耐震性にはやや難がある。木造枠組壁工法は、壁自体で家を支える方法で、耐震性は高いが自由度は低い。コストも在来に比べると高い。軽量鉄骨は、耐震性に優れるが設計自由度はやや低い。減価償却期間が長いのもネックとなる。また外壁も重要な選択肢となる。一般的な住宅はサイディングを採用しているところが多いと思うが、メンテナンスのことを考えるとタイルやコンクリート外壁を選択することになる。塗り替えの必要がなく、最新のタイルでは紫外線の力で表面の汚れを分解し雨で洗い流してくれる。北海道では暖房も選択の重要な要素になる。ストーブ、セントラルヒーティングなどが一般的と思われるが、我々の選択は全館床暖であった。床暖のメリットは、ヒーターパネルを壁面に設置する必要がないため部屋を広く使えることと、床と天井で温度差が少ないことがある。デメリットは、暖めるのに時間がかかることと、コストが高いことである。我々は耐震性、メンテナンスのしやすさと床暖房を重視し、木造枠組壁工法、タイル外壁、全館床暖のI工務店で建てることに決めた。I工務店は、静岡に本社があり最近北海道で急速に建築棟数を伸ばしている会社である。決め手は圧倒的な気密断熱性能だった。壁は20cmの厚みがあり、中にウレタンフォームがぎっしり詰まっている。サッシもトリプルガラスで1枚目は強化ガラス、3枚目は樹脂フィルムを挟んだ合わせガラス、その内側

に熱を逃がさないハニカムシェードと徹底的なこだわりである。この頃、胆振東部地震が起こり、苫小牧の我が家も物が落ちたりして被害を受けた。ブラックアウトで2日間停電。そこで災害時のため太陽光発電も取り入れることに。ただ太陽光については蓄電池がないと夜使えない。蓄電池はコストの関係で見送り。結局災害対策というより電気代の節約とCO2排出量の削減に貢献できた程度しかないのである。

家の性能が確保できたところで家へのこだわりである。いろいろあるがいくつか紹介すると1つ目は、リビングのシアター化である。天井に埋め込みスピーカーを5つ入れ、サブウーファーを1台、それと以前使っていたオーディオスピーカーを2本加え7.1chのサラウンドシステムを構築した。65インチのTVを壁付けにして配線が見えないよう壁の中を通した。音楽ライブなどを見ると迫力満点で予想以上の効果である。2点目であるが、ゴルフ用具の収納室である。私は競技ゴルフを長年やってきたが、土砂降りの日でもプレーすることがあり、ゴルフ用品を乾かす場所に悩まされてきた。そこで2つめの玄関を作り、そこから入ると3畳ほどの小部屋。ここで用具を乾燥させたり収納したりして家に入る。家の中が汚れないようにする仕組みである。他にもいろいろこだわった点があるが、誌面の関係で割愛する。

現在引っ越しから3ヵ月が経過したが、新しい設備に戸惑いながらやっと落ち着いてきたところである。気密断熱が良いことは、やはり素晴らしいと思った。以前の家からみると面積は倍になったが、光熱費は逆に安くなった。また厚い壁と3重サッシのおかげでオーディオの音量を少々上げても音が外に漏れることはない。太陽光発電については、天気の良い日は売電できるようであるが、曇りでは電気の使用を賄えるほどは発電しない。環境への影響だが、1ヵ月で石油100ℓ程度のCO2を削減できたようである。将来的には災害時にも役立つよう蓄電池の導入を考慮したい。床暖については、床が少々暖かい程度であるが、真冬でも部屋が寒いということはない。壁面が有効に使えるし、部屋と部屋の温度差が少なく非常に良い。

以上我が家について報告させていただいた。100人いれば100通りの家があると思うが、皆さんは家を建てる時、重視するのは何であろうか？家を建てるという経験ができて楽しい1年だった。